

サウジアラムコ

流出油緊急時対応計画

A. S. Zaindin

概 観

地域経済と世界経済にとってのペルシャ湾の重要性はいうまでもない。世界の原油の 1/4 以上がこの地域の湾岸諸国により生産されており、沖合ガスおよび NJL の生産もかなりの量に上る。毎年、何十億バレルもの原油が湾岸の石油ターミナルから積み出され、何千隻ものタンカーで世界のほとんどの地域に輸送される。とはいえ、この活動には相当な環境上のリスクがつきものである。

食料と水の供給源として、また湾岸の多くの住民のための仕事と生計をまかなうものとしてのペルシャ湾の重要性を認識し、わが国の諸機関ならびに石油業界は操業の安全性を保証し、海洋環境を保護するために多大な努力をはかっている。油の漏出や事故的流出の予防につねに力点が置かれるが、いったん流出が起これば、政府と産業界は適当な対応をなすべく、資機材を用いた流出油緊急時対応計画を実行に移す。

サウジアラビアの国家緊急時対応計画

石油およびその他の有害物質による海洋環境の汚染に対処するためのサウジアラビアの国家緊急時対応計画は 1991 年 2 月に承認された。この計画は、利用可能な地域的および国際的資源の最大限の活用を通して、汚染の影響から海洋環境とサウジの海岸線を保護するための、調整された迅速な対応メカニズムを確立することを求めている。

石油開発ならびに石油その他の有害物質の取り扱いと輸送は、環境への損害と経済的損害の危険ならびに一般人の健康への脅威を最少限に抑えるように実施しなければならない - これがサウジアラビア王国の政策である。実際に流出が生じた場合は、流出による環境、一般人の健康および福祉へのリスクを最少限に抑えるために迅速かつ効果的な措置がとられる。

この計画は、流出油業務のための国内の対応調整機関としてサウジアラビア気象環境保護庁 (Meteorology and Environmental Protection Administration = MEPA) を指名する。また、この計画は、流出油の予防と抑制のための国、地域および地方の責任も設定し、また地域および地方の対応計画の作成も規定する。

MEPA には国内レベルでの汚染事故への対応に関連する各種の業務が割り当てられる。MEPA は、国家計画の下で、汚染の対策と管理のための政策、規制および手続きを作成し、

公開し、監視する。MEPA は流出油の追跡に必要な監視と調査を実施する。また、汚染の影響を確認するための環境調査も実施する。大規模な流出危機への対応時には、MEPA は国家計画を実現するのに必要な資機材を決定しなければならない。

国家計画は地域および地方の対応計画の作成を要求する。ペルシャ湾と紅海のそれぞれの地域運営委員会はそれぞれの地域計画を作成しなければならない。MEPA が議長をつとめ、さまざまな関係省庁からのメンバーから構成される地域活動委員会はペルシャ湾と紅海のそれぞれに対して設立される。地域計画は地域規模の対応を必要とする汚染事故への対応に必要となる運用上の指針と手続きを詳細に定めるものである。自らの管轄地域内の海上または沿岸に設備または施設を保有するあらゆる組織は、汚染対策のための地方計画を作成しなければならない。

MEPA は、最大限の効率で国内資源と国際資源を利用できるように、国家規模の汚染を管理するための対応業務を調整しなければならない。地域レベルでは、ペルシャ湾と紅海のそれぞれの地域活動委員会が、地域規模の対応を必要とする汚染が生じた場合に、両地域のそれぞれの対応業務を計画し、調整する。地方レベルでは、海上または沿岸に設備または施設を保有するすべての組織は、それらの設備・施設を保護し、かつ各施設の内部で汚染対策業務と浄化を行うのに必要な要員と資機材を確保しなければならない。各組織はその管轄権に基づくすべての設備または区域における汚染への対応の責任を追う役員を指名しなければならない。これらの区域以外の、責任の割り当てがないところでは、MEPA が汚染への対応の責任をとる。

サウジアラムコの流出油緊急時対応計画

サウジアラムコの初期の活動は流出の処理のための自給自足を中心に据え、流出油の回収および閉じ込め用の専用船を建造し、流出対策用の資機材を購入した。1989年にサウジアラムコは、必要に応じて全世界におけるサウジアラムコの能力を評価し、勧告を行うことを目的とした対策委員会と上級レベル審査委員会を指名した。

審査対策委員会の勧告の結果、わが社は大規模流出油緊急時対応計画を作成した。

- この計画はサウジアラムコの全世界での操業に対する流出油政策を設定する。
- この計画は主要協同組織に参加するようサウジアラムコとその関連会社に命じる。
- この計画は流出油に対する地域責任を割り当て、地域および所有タンカーの流出油計画の作成、実現および維持を要求する。地域計画は関係諸国およびサウジアラムコに対する正式の通知手続きを定める、また、地域計画は、地方の法的要件を含み、各種対応策を規定し、かつ流出油対策に利用可能な資源を指定する。

流出油の潜在的影響を認識し、経営幹部レベルの流出油委員会が 1990 年に設立された。この委員会はサウジアラムコの操業にもとづく流出油の予防と浄化に関する全体的な方針を設定する。大規模流出油調整グループという恒久的組織が設立された。このグループは海洋流出油の予防と管理に関するわが社の全業務を遂行し、調整する。流出油が生じた場合は、地域流出油調査者 (ROSC) が流出油対応チーム (OSRT) に流出油対策を命じる。ROSC は安全かつ効率的な管理、浄化作業、処分、復元、および流出油の記録の作成を含む、対応チームの展開に関する全業務の責任を負う。それぞれの地域のための緊急時対応計画が作成されてきた。

油汚染対応機材はペルシャ湾と紅海の両方に配備される。ペルシャ湾では、北部の Tanajib と南部の Ras Tanura に置かれる。資機材には回収船、オイルフェンス、スキマー、保管用はしけ、空中および海上分散剤システムが含まれる。

紅海地域では、わが社は各施設に機材を配備した。各地の資機材は各施設の近辺の中小規模の流出を扱う段階 1 (Tier 1) として設計された。地元の対応能力を超えと思われる大規模な流出が生じた場合は、Ras Tanura その他の基地から必要に応じて追加資源が投入される。

サウジアラムコの流出油対策能力を高めるため、わが社は油流出時の協力援助と流出油技術の共有を行う諸組織への国際規模での参加ならびに会員資格を取得した。これらの組織は、現在世界的な流出対応能力を提供している英国の Oil Spill Response (OSR) Ltd.; カリブ海地域の Clean Caribbean Cooperative (CCC); 米国の Marine Preservation Association (MPA); メキシコ湾の Marine Industry Response Group (MIRG)、およびペルシャ湾の Gulf Area Oil Companies Mutual Aid Organization (GAOCMAO) である。また、わが社はサウジアラビアの Al Khafji とアラブ首長国連邦の Abu Dhabi に最近日本が配備した 2 カ所の資機材備蓄を認めている。2 カ所の備蓄はこの地域の対応能力を拡充するための大きな進歩と考えられる。

当社は流出油対策の準備態勢を向上させるため、独特の対応訓練コースを実施し、わが社の職員の準備態勢を整えている。これはわが社の従業員による地域の流出油対応チームの編成を目標とするものである。わが社の訓練にはさまざまなレベルがある。すなわち、現場従事者コース、管理・指揮者レベルコース、および経営者レベルの危機管理コースである。また、わが社の緊急時対応計画と流出油対応チームの準備態勢をテストするために、毎年流出油演習が行われる。例えば、紅海沿岸の Rabigh 精油所と Yanbu コンビナートでは、1996 年に 1 回の対応コースと 1 回の演習が予定されている。通常、対応コースは英国の Oil Spill Response Limited の訓練スタッフにより 3~5 日間実施される。演習は 1 日で実施する。サウジアラムコの訓練コースと演習には関連政府機関に参加の招待を行うのが通例である。